

今、なぜロースクールで学ぶのか 列島縦断リレー 大阪会場 感想

感想文1

今回、私がこのイベントに参加して、一番興味深かった内容は法科大学院修了の法曹三者の方の講演でした。

そこでは、法曹三者の方からロースクールに入学し、司法試験に向けて勉強していくことがいかに大切であるかを学ぶことができましたと思います。例えば、特にロースクールは司法試験という難関試験に合格するためだけに行くのではないこと。ロースクールで出会う仲間や友達と一緒に勉強することで切磋琢磨し、ともに成長していくことの重要性などを学ぶことができました。また、ロースクールでできた仲間とのこのような「繋がり」は将来、法曹としての仕事をしていく上でも非常に大切なものとなることも学ぶことができました。

勉強は一人でするものだという考えが以前までありましたが、今回このようなイベントに参加して、仲間と一緒に切磋琢磨することの重要性を学ぶことができました。だから、ロースクールに進学した際は、共に勉強し司法試験合格はもちろん、その後、法曹として生きていく上でも良い関係を築くことができる仲間を作っていきたいと思いました。

感想文2

私は、12月13日土曜日に大阪弁護士会館で行われた「今、なぜロースクールで学ぶのか 列島縦断リレー 法科大学院がわかる会」に参加しました。

私は、法科大学院修了の実務家によるパネルディスカッションと実務法曹の方を囲んでの懇談に興味があり、この会に参加しました。

パネルディスカッションで、法科大学院修了の実務家の方が、法科大学院とは様々な考え方があることを様々な人と協力しながら学ぶところ、院生のころは友人と協力しながら勉強した、友人と議論しながら考えを広げた、先生に質問して知識を深めたという経験をととても楽しそうに話されるのを聞いて、法科大学院というところは、様々な人や考え方を知りながら、皆と協力して勉強ができるところなんだとわかりました。自分が法科大学院でどう過ごすかを考えるにあたり、役に立つものばかりでした。とても有益なお話が聞けて良かったです。

実務家との懇談では、検察官の方にお話を聞くことができました。検察官を志望している私としてはまたとない機会でした。検察官の仕事のこと、検察という組織のこと、その難しさや過酷さについてのお話を伺うにつれ、検察官が一層魅力的な仕事になり、検察官を志望する気持ちがより強くなりました。

実際に法科大学院を修了した方、その後実務家になられた方のお話はとても興味深く、そのおかげで、法科大学院に行けば、自分も様々な考え方を学べるし、

広い知識を身に着けられるし、多くの人と話ができる、実務家になれば社会の役に立てる、責任ある仕事ができるという思いを持つことができ、法科大学院や法曹実務家に対する憧れや希望が広がりました。

この会を開催してくださった方々に感謝申し上げます。

感想文 3

第一部

第一部では法曹三者の方々に様々なことについてお話を聞くことができました。

まず裁判官の方のお話では、裁判官という職業についてお話いただきました。特別な身分である裁判官という職業の詳しい内容について、自分はほとんど知らなかったのも、とても興味深かったです。任官して五年は単独で判決文をかけないという話はすでに知っていたのですが、複数で案件に取り組む際に、歴に関わらず対等な関係として議論を行うという話は初めて聞いたもので、裁判官の仕事の魅力とその責任の重大さがよくわかりました。

検察官と弁護士の方のお話は、法科大学院での経験についてのお話が強く記憶に残っています。特に弁護士の方のお話で、法曹に関わる職に就く上で重要なことは法律についての知識だけではないのだということを知りました。

パネルディスカッションでは各先生方の法科大学院に入学した経緯とそこで得た経験について聞くことができました。自分にとって驚きだったのは、ほとんどの先生方が、法科大学院に入学する前に他の職業に就いていたということでした。はじめから法曹志望である自分にとって、別の職に就いていながら法曹へ進もうと決心し、実際に進んだ方のお話はとても新鮮でよい刺激となりました。

第二部

第二部では、各先生方とほぼ一対一でお話をすることができました。全体的に、普段の講演会等では聞くことができないお話をさせていただきました。自分はまず、組織内弁護士の方々とお話をしたのですが、組織内弁護士になるまでの経緯にはじまり、果てには通常の弁護士との給料体系の違いまで、内部事情をたくさんお話しいただけて、組織内弁護士にも興味を持ちました。最後に金融証券調査官の方と一対一でお話しする時間をいただいたのですが、法曹に向けてのアドバイスをたくさんいただけて励みになりました。

全体の感想ですが、法科大学院についてのお話は勿論、そもそも法曹の職業についてのお話を深く深く聞くことができ、より、法曹界に向けての気持ちを高めるよい機会となりました。これを励みにより一層勉強に取り組みたいと思います。

感想文 4

私は昔から検察官になりたいという夢を持っており、そのためには法科大学院に進学しなければならないということは分かっていたが、実際に法科大学院とはどんなところなのか、ということについて調べることは、何となく面倒だったために先延ばしにしていた。

しかし、そうそう先延ばしにしていられない時期になってきたこともあり、今回の説明会を機に法科大学院について知りたいと感じ、私は説明会への参加を決めた。

説明会当日のパネルディスカッションや座談会を通して、法科大学院を卒業して法曹になっておられる方から、法科大学院の様々な特色を聞くことができた。

その中でも特に印象深かったことであり、パネリストの方々が共通して主張しておられたことが、法科大学院の「お互いを支え合い、励まし合い、切磋する雰囲気」というものであったように思える。

勉強していると、どうしても辛いときがある。そんなときに、周りの皆が司法試験合格を目指して努力しているという環境に置かれていれば、やはり刺激を受ける。自分も負けたくないと思える。勉強会の開催など、お互いを刺激し合うことで、己をさらに高めることができる場所、それが法科大学院の魅力なのだとひしひしと感ずることができた。

座談会においても、初めて裁判官の方のお話を直接聞いたことで、今までは無かった裁判官という職業への興味が芽生え、また、インハウスローヤーという生き方の面白さを知ることができた。

この経験によって、私のこれからの進路にも、より幅が出たのではないかと思う。

説明会を通して、法科大学院だけでなく、法曹そのものの可能性を新たに自分の中で発見できた、素晴らしい機会となった。